

GT-R Magazine

129 2016/Jul

Aut Messe Web
<http://www.automesseweb.jp>

平成28年6月1日発行・発売(偶数月1日発行・発売)通巻114号 第20巻 第4号 平成10年9月18日第3種郵便物認可 定価1300円

誰もが知りたかった「20年×20万km超」の現実

走行20万kmの実力診断

R35GT-R商品企画責任者の胸の内

2017年モデル×田村宏志



HKS 26REBORNプロジェクト

「GTⅢタービン」徹底検証

NISMO大森ファクトリーが作る理想形

BCNR33グランドツーリング仕様

「GT-Rは5本スポークという確固たるイメージはグループAが原点なんです」と萩原氏。

その想いを結実させたのがアドバンスド・サイドカットと呼ばれる5本スポークのデザインであり、さらに同社のホイールコンセプトである、ス



アドバンスド・サイドカットと呼ばれるスポーク部分のえぐり加工を今回は両サイドに施工。迫力あるコンケイプは5種類を設定



横浜ゴム 製品企画部
ホイール企画・デザインCMP 萩原 修氏

「GTがあるから他ブランドもそれに負けじと毎年ブラッシュアップすることで新たな魅力を引き出しています」



7月発売予定の11J×20インセット0はオーバーフェンダーを組み込んだR35GT-Rでほぼツライチになる絶妙なサイズ設定。今冬のタイムアタックシーンで活躍しそうだ

「RS-DFとGT、今回紹介したふたつのモデルは投入から4年以上を経過しているが、フルモデルチェンジすることなく、アップデートすることで輝きを失わせない。「ちょっと不具合が出て頭のいいヤツ。そんなクルマになるようなホイールを目指しています」と萩原氏。アドバンスド・サイドカットはそんな硬派な雰囲気漂うホイールなのである。

すぐにモデルチェンジせず進化させるのがヨコハマ流



力強さを強調するGTに比べて、RS-DFはスポークも細く繊細な印象。ただし、10本スポークは応力分散に優れ、GT同等の剛性を確保しながら、軽量化で凌駕している

ポーツホイールとしての機能と停まつているだけでオーラを放つ存在感を融合させた自信作である。

翌年10本スポークのアドバンレーシングRS-DF(19インチ)をリリースしたが、アドバンレーシングGTのブームに火が付いていた時期で、性能は同等であったが、その花形に押される格好になってしまった。そのため今回、18インチモデルのRS-DFを投入するにあたり、コンセプトに掲げたのは「ライバルはアドバンレーシングGT」。革新するという意味の「プログレッシブ」というサブネームを加えて、18インチのGTの性能を凌駕することを目標に開発は進められた。

「RS-DFプログレッシブはスポーク部にアドバンスド・サイドカットを採用し、かなり軽くすることができました。18インチに限って言えば10本スポークのほうがバランスいいんです」と自信を見せる。

一般的に、リバースリムを採用できれば軽さと強さを両立しやすいが、アフター市場で最大級サイズとなる400mmローターとビッグキャリパーを組み合わせるには18インチのリバースリムは成立しない。そのため、

ライバルは同門にあり

登場から5年、いまだヨコハマホイールの人気を牽引するADVAN Racing GT。その花形ホイールを超えるために登場したRS-DF PROGRESSIVE。弛まぬブラッシュアップで進化するヨコハマホイールの魅力に迫る

文：竹内俊介 写真：清水良太郎/小林 健 (本誌)
©YFC 03・3431・9981 <http://www.yokohamawheel.jp/>
取材協力：Kansaiサービス ☎0743・84・0126 <http://www.kansaisv.co.jp>

18インチでは表組をさらに進化させたレーシングリム・プロファイルを採用している。また、応力分散に優れた10本スポークには軽量化の余裕があり、ライバルとしたGTを性能面で超えることができたという。

カラーバリエーションにも萩原氏ならではのこだわりが見える。ブラックブロンズメタリックは、通常イメージするブロンズとは異なり、濃い目とすることで質感を高めた。また人気の黒系のレーシングチタニウムブラックもデザイン面を仕上げない微妙な色合いを出すなど細部までビジュアルを追求している。

常に進化し、性能に裏打ちされた高性能ホイールこそGT-Rの足元を固めるにふさわしいだろう。

「一度発売した商品は簡単にモデルチェンジはせず、磨き込みながらロングライフを目指します。それがお客様さまを裏切らないことだと思っています」と萩原氏。

その言葉を証明するように、今年5年目を迎えたアドバンレーシング



従来最少サイズのインセット5(写真左)と比べてコンケイプの落ち込みはかなり深い。5本スポークのデザインが引き立つ

GTにも新サイズを投入。それが11J×20インセット0というさらにコンケイプを強めたR35用サイズだ。

発売から9年目を迎えたR35GT-Rは、徐々にではあるがカスタマイズユーザーも増え、ショップのデモカーを中心に285/35R20のタイヤを4輪に装着するため、ワイドフェンダーも多くなってきた。これまではインセット5が最小サイズであったが、性能追求はもちろん、真のツライチを目指すためギリギリまで攻めた。もちろん、ロングハブポルトやスペーサーも不要なサイズなので安全面でも安心できる。

正式デビューは今年7月。この冬のタイムアタックシーズンには、多くのトップチューナーが装着することは間違いないだろう。

デザイン性と軽さでGT超え



ADVAN Racing RS-DF PROGRESSIVE 8万4,780円(9J×18 25)~9万3,960円(11J×18 15)/本

YOKOHAMA WHEEL
ADVAN Racing
RS-DF × GT
PROGRESSIVE Premium Version

性能もビジュアルも譲らない



ADVAN Racing GT Premium Version 10万2,600円(10.5J×19 25)~11万5,560円(11J×20 0)/本